

# 在セネガル日本国大使館月報

2018年5月

## 主な出来事

### セネガル

#### (内政)

- 14日、検察側は、テロ未遂容疑で逮捕されているイマーム・アリウ・ンダオ容疑者に、テロ称賛・テロ幫助・テロ資金拠出等の罪で懲役30年を求刑し、ボコハラム関係者とされるマター・ジョカネ他9名に対しては、テロ称賛等の罪で終身懲役を求刑した。
- 15日、サンレイ市ガストン・ベルジェ大学にて奨学金の未払いに抗議する学生と治安当局が衝突し、学生1名が死亡した。これに抗議するデモがジガンシオールやダカール大学にて行われ、一部が暴徒化し、治安当局と衝突した。

#### (外政)

- 12日、サル大統領はフリータウンで開催されたビオ・シエラレオネ大統領の就任式に出席した。

#### (経済)

- 2018年7月に農業省がジャムナジョ地区に移転するのを皮切りに技術省庁(畜産省、漁業省、運輸省、国民教育省等)も同年9月までに同地区に移転予定。

### カーボヴェルデ

- 31日、フォンセカ大統領は、CPLP首脳会合の準備は順調に進んでおり、ブラジルを含め加盟国全ての元首が出席を確認したと述べた。

### ガンビア

- 22日、ブリュッセルにてEUとガンビアの共催により対ガンビア支援国会合が開催され、2018～2021年国家開発計画の実行のため総額14億5千万ユーロの支援がプレッジされ、その内1億4千万ユーロはEUがプレッジした。

### ギニアビサウ

- 29日、ゴメス首相はヴァス大統領の親書を携えサル大統領と会談した。同首相は、11月に予定されている議会選挙に向けた進捗状況についてサル大統領に共有し、ギニアビサウの政治危機脱却に向けたサル大統領の継続的な関与に対し感謝した。

### セネガル

#### (内政)

#### 2019年大統領選挙関連

- 9日、4月19日に国民議会にて採択された大統領選挙立候補要件に関する憲法改正は憲法違反及び国民議会院内規則違反として野党側が憲法裁判所に同改正の無効を申し立てた案件につき、同裁判所は同案件つき判定する管轄権を有していないと結論を出した(11日 Le Soleil)。
- 野党 Grand Parti のガク党首はルソレイユ紙のインタビューに応じ、同党の公約である「セネガル復興のための代替計画」を紹介し、政権に就けば、社会保障支出の財源とするためにも、省庁の最大25省庁への

削減、国民議会議員数の100名への削減、セネガル社会・経済・環境評議会及び地方公共団体高等評議会の廃止を実施すると述べた(15日 Le Soleil)。

### **ストライキ・デモ活動**

- 2日、ジョヌ首相は、住居手当の拡充を求めストライキを行っていた教職員組合との13時間を超える協議を行い、新たな合意に署名した(2日 Le Soleil)。
- 15日、サンレイ市ガストン・ベルジェ大学にて奨学金の未払いに抗議する学生と治安当局が衝突し、学生1名が死亡した。これに抗議するデモがジガンシオールやダカール大学にて行われ、一部が暴徒化し、治安当局と衝突した(15日 Seneweb)。
- 28日、サル大統領は全セネガル学生連盟の代表と面会し、同連盟が要求する奨学金の増額と学食料金の低下に応じると述べた。一方、学生が求める高等教育大臣・財務大臣・内務大臣の更迭については応じていない(29日 Le Soleil)。

### **治安関連**

- 3日、カザマンス地方において、武装集団による橋梁爆破事件が発生し、地元の漁師1名が死亡した(4日 WalfQuotidien)。
- 14日、検察側は、テロ未遂容疑で逮捕されているイマーム・アリウ・ンダオ容疑者に、テロ称賛・テロ助成・テロ資金拠出等の罪で懲役30年を求刑し、ボコハラム関係者とされるマター・ジョカネ他9名に対しては、テロ称賛等の罪で終身懲役を求刑した(15日 Le Soleil)。
- 23日から24日の夜にかけて、ジガンシオール州のサミック村で武装強盗が民家に押し入り、民家に住んでいた幼児が銃撃され死亡し、幼児の母親が足を撃たれ負傷した。武装強盗はギニアビサウ国境方面へ逃走しており、軍が追跡している(25日 Le Soleil 他)。
- 27から28日の夜にかけ、ギニアビサウとの国境に近いコルダ州のグレ・イエロ・ボカール村で武装集団が商店に侵入した。住民の反撃に遭い、武装集団は銃撃を行ったが、その過程で武装集団の1名が銃弾を受け死亡し、3名の住民が負傷した。死亡した武装集団の1名は死亡前にギニアビサウから来たと言った(29日 WalfQuotidien 他)。
- 30日、ジガンシオール州のニヤシア・コミュニティで武装集団が公共交通車両を襲撃し、乗客が所持品を盗まれた。死者・負傷者は発生していない(31日 Le Temoin 他)。

### **社会動静関連**

- 17日、セネガル国家三日月協議委員会の決定に基づきラマダンが開始された(17日 Le Soleil)。
- 2017年末時点で、全国37箇所の子供院に収容可能人数が合計約4200人であるのに対して約1万人の囚人がおり刑務所は過密状態となっている。最も過密な刑務所はルブス刑務所で、469人の収容可能人数に対して2279人が収容されている(18日 WalfQuotidien)。

### **文化関連**

- 24日、ロシアワールドカップに出場するセネガル代表の壮行会が大統領府で開催され、サル大統領は最大限の力を出して欲しいと激励し、代表チームを応援するため12日間ロシアに行くこと約束した(25日 Le Soleil)。

## (外政)

### 二国間関連

- 11日、ラジオ番組にて、ビゴット駐セネガル仏大使は、セネガル市場に仏企業が占める割合は10年で25%から10%に減り、セネガルへの海外からの投資に占める仏からの投資は20%前後である旨述べ、セネガルは安定し魅力的な国であるため多くの国が進出している旨述べた(11日 L' Observateur)。
- 11日、モンリオールにて開催されたセネガル経済フォーラムの機会に、サンピエール・ケベック州国際関係・仏語圏大臣は在ダカール・ケベック州代表事務所の設置に係る協定を署名した(14日 Le Soleil)。
- 12日、サル大統領はフリータウンで開催されたビオ・シエラレオネ大統領の就任式に出席した。3月31日の大統領選に勝利したビオ大統領は、4月10日に初の外国訪問先としてセネガルを訪問していた(12日 APS)。
- 20日から21日、カバ外務大臣は、ブエノスアイレスで開催されていたG20外相会議にNEPAD議長国代表として出席した(22日 Le Soleil)。
- 23日、釜山にて開催されたアフリカ開銀総会の際に、ジャムナジョの国立ガンセンター建設に向けた韓国輸出入銀による8550万ドルに上る借款供与合意が駐韓国セネガル大使及び同銀総裁の間で署名された。同センターの建設費は1億550万ドルと見込まれており、セネガル政府が2000万ドルを支出し、2019年に工事が開始予定(24日 Le Soleil)。

### 国際情勢関連

- 11日、リビア担当AU代表のングソ・コンゴ(共)大統領の要請に応え、アブドゥ・ジュフ国際会議センターにてリビア内紛関係者が集いリビア間協議が開催された(11日 APS)。
- 15日、サル大統領はイスラム協力機構第11回通信・文化問題常設委員会の開会式にて演説し、テロに対応するためには過激思想の標的となる若者の教育・人材育成・雇用が重要であり、教育に投資する必要がある旨述べた(15日 APS)。
- 15日、サル大統領は、パレスチナ人とロヒンギャ族に対する武力行使を非難し、イスラム共同体及び国連にこの人道的悲劇を終わらすための尽力を呼びかけ、また、エルサレムを首都とした独立主権のパレスチナ国家に対する確固たる連帯を表明した(16日 L' Observateur 他)。

### 日本関連

- 8日、日本大使館はNGO「Marie Stopes International Senegal」へ71955ユーロ(470億FCFA)の支援を行い、同支援により2台の車両と2基の加圧蒸気滅菌器が購入された。同器材により、同NGOによる地方でのリプロダクティブヘルスに係る啓発活動等が可能となる(9・10日 Le Soleil)。

## (経済)

### ジャムナジョ経済特区関連

- 2日、サル大統領は、ジャムニャジョ都市圏移転に伴う最初の庁舎建設の起工式へ出席し、大統領府別館の建設を決定した。また、官公庁の移転により賃借料が年間80億FCFA軽減できると述べた(2日 LeSoleil 他)。
- 9日、ジャムナジョ都市圏及びローズ湖都市圏公共インフラ管理会社(Sogip)は、ジャムナジョ都市圏に建

設中の大型タンクローリーターミナル、国有市場、ダカールスポーツドーム、博覧会場が2018年の12月にも完成予定である旨述べた(11日 Le Soleil)。

- 2018年7月に農業省がジャムナジョ地区に移転するのを皮切りに技術省庁(畜産省、漁業省、運輸省、国民教育省等)も同年9月までに同地区に移転予定(22日 L'Observateur)。

### **資源関連**

- 掘削産業の透明化イニシアティブ(Initiative pour la transparence dans les industries extractives, ITIE)の執行理事会は、セネガルが同イニシアティブの基準遵守においてアフリカで1位、世界で4位であると発表した(11日 Le Soleil)。
- 29日、オランダ大使館主催により、第3回持続可能な発展に関する全国会議が開催され、ジャン環境大臣は、ガス・石油採掘の際には環境配備に配慮して実施されるようあらゆる措置を取る旨述べた。駐セネガル・オランダ大使は、ガス・石油採掘の際の環境保護に関する知見をセネガルと共有する用意があると述べた(30日 Le Soleil)。

### **インフラ関連**

- 9日、ダカール・サンルイ間の高速道路建設計画に係る資金動員方法及び工期を議論するための会議が開催され、資金拠出意向のサウジアラビア開発基金、クウェート・アラブ経済開発基金、イスラム開発銀行等の関係者が出席した。同高速道路の全長は約190kmで、第一区間チバウヌプル・ロンブル(114km)、第二区間ロンブル・サンルイ(81km)に分けて工事を行う計画。第一区間の総工費は2400億FCFA(4億8千万ドル)と見積もられている。政府は同事業に870億FCFA(1億7500万ドル)を拠出予定。第二区間について、政府はアフリカ開発銀行及び欧州投資銀行からの資金動員を要請した。同高速道路は、サンルイ沖の天然ガス・石油鉱区の開発及びアルジェ・タンジェ・ヌアクショット・コナクリ・アビジャンを結ぶ国際回廊の中に位置し経済発展を後押しすることが期待されている(11日 Le Soleil)。

### **カーボヴェルデ**

- 4月30日、カーボヴェルデ政府と国連は、総額2180万ドルの2018年度年間計画に署名した。同計画は、国連開発支援枠組(2018~2022)、持続可能な開発に係る戦略計画、アジェンダ2030、SDGsに沿って策定されたもので、公平で持続的な開発の確立に貢献することが期待されている(2日 Infopress)。
- 3日、コレイア首相との会談後にアメリカ・アフリカ軍副司令官は、7月と8月の間にアフリカ40カ国が参加する会議「Africa Endeavor」をサル島で開催すると述べた。同会議は、アフリカ諸国の軍とアメリカ軍との間の相互運用性を強化することを目的とする(3日 Infopress)。
- 22日、閣議が開催され、第12回CPLP首脳会合の議題として、人・モノの移動の自由及びポルトガル語の地位向上とすることを決定した(24日 Infopress)。
- 31日、フォンセカ大統領は、CPLP首脳会合の準備は順調に進んでおり、ブラジルを含め加盟国全ての元首が出席を確認したと述べた(31日 Infopress)。
- 31日、タバレス外相は、5月中に予定されていたが日程の都合で延期されていたラブロフ・ロシア外相の訪問が近日中にも実施されると発表した(31日 Infopress)。

## ガンビア

- 15日、世銀は4100万ドル相当の対ガンビア支援「電力復興近代化計画」を承認した(16日 Freedom newspaper)。
- 16日、ヒューマン・ライツ・ウォッチとトライアル・インターナショナルは、ヤヤ・ジャメ前ガンビア大統領が50名以上のガーナ、ナイジェリア他西アフリカ諸国からの移民の殺害に関与した疑いがあると発表した(16日 Panapress)。
- 22日、ブリュッセルにてEUとガンビアの共催により対ガンビア支援国会合が開催され、2018～2021年国家開発計画の実行のため総額14億5千万ユーロの支援がプレッジされ、その内1億4千万ユーロはEUがプレッジした(23日 The Point)。
- 28日、ルモイン仏外務次官は、駐ガンビア仏大使館を再開し2022年までに5000万ドルの対ガンビア支援を行うと発表した。仏大使館は2013年11月以降閉鎖されていた(29日 The Point)。
- 29日、ガンビア大学と中国の貴州大学との間のMOU署名式がガンビア大学にて開催され、また、孔子学院も開所した(30日 The Point)。

## ギニアビサウ

- 4日、国連事務総長は駐イタリア・ブラジル大使等を歴任したフィルホ氏をトゥーレ氏の後任としてギニアビサウ担当国連事務総長特別代表及び国連ギニアビサウ統合平和構築支援事務所所長に任命した(4日 Lusa)。
- 22日、ゴメス首相はメディアのインタビューに応え、11月18日に予定されている議会選挙には660万ユーロが必要とされており、ギニアビサウ政府は200万ユーロを拠出した、国際社会に支援を要請しているが、まだ拠出には至っていない旨述べ、選挙費用の補充が課題であると述べた(22日 dn.pt)。
- 29日、ゴメス首相はヴァス大統領の親書を携えサル大統領と会談した。同首相は、11月に予定されている議会選挙に向けた進捗状況についてサル大統領に共有し、ギニアビサウの政治危機脱却に向けたサル大統領の継続的な関与に対し感謝した(30日 Le Soleil)。

(注) 本月報は、セネガル・カーボヴェルデ・ガンビア・ギニアビサウの報道を当館限りでまとめたものです。記事内容は、日本政府やセネガル政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承下さい。 (了)